大神事、同五日に修行す。

其後神殿に至り、神勇の大祝詞を捧げ、終りて燈火を消し、暗となして神輿をわたし奉る。神輿八基の内七基は、二の華表の前より甲州街道の大路を西へ渡しまゐらす。一基は随身門の前より左にわかれ、府中本町の方より出でゝ、ともに番場宿の角、札辻の御旅所へ遷しまゐらす。

本殿
一棟三殿

西殿（向かって右）	六ノ宮	杉山大神（神奈川県横浜市緑区西八朔二〇八）
	五ノ宮	金佐奈大神（埼玉県児玉郡神川町七五〇）
	四ノ宮	秩父大神（埼玉県秩父市番場町一―三）
中殿	大國魂大神	
	御霊大神	
	国内諸神	
東殿（向かって左）	一ノ宮	小野大神（東京都多摩市一ノ宮一―一八―八）
	二ノ宮	小河大神（東京都あきる野市二宮二二五二）
	三ノ宮	氷川大神（埼玉県さいたま市大宮区高鼻町一―四〇七）

- くらやみ祭の起源は平安時代末期の頃の国府祭が元になっているという。江戸時代に盛んになった。

《8基の神輿がある》

- 一番古い神輿は一の宮で明治21年作

本殿前に並ぶ8基の神輿　　平成29年5月5日撮影

随神門を出る一の宮の神輿

くらやみ祭　部分

85 小野神社旧址

府中市住吉町 三の十九・（多摩市一ノ宮 二の十九）

府中の小野神社

一宮 大明神社 百草八幡宮より十五六町北の方、多麻川の南岸一宮村にあり。六所宮よりは西南一里あまりを隔つ。祭神は天下春命なり。

小野神社舊址 小野宮村陣街道の右にあり。今祠に叢祠を存するのみ。

⊙ なぜ小野神社が2つあるのか。

- 多摩川の洪水で流された説。
- どちらも 3代安寧天皇18年(530)(B.C)と古い。
- 府中の方には樹齢2000年という大ケヤキの根が残っている。

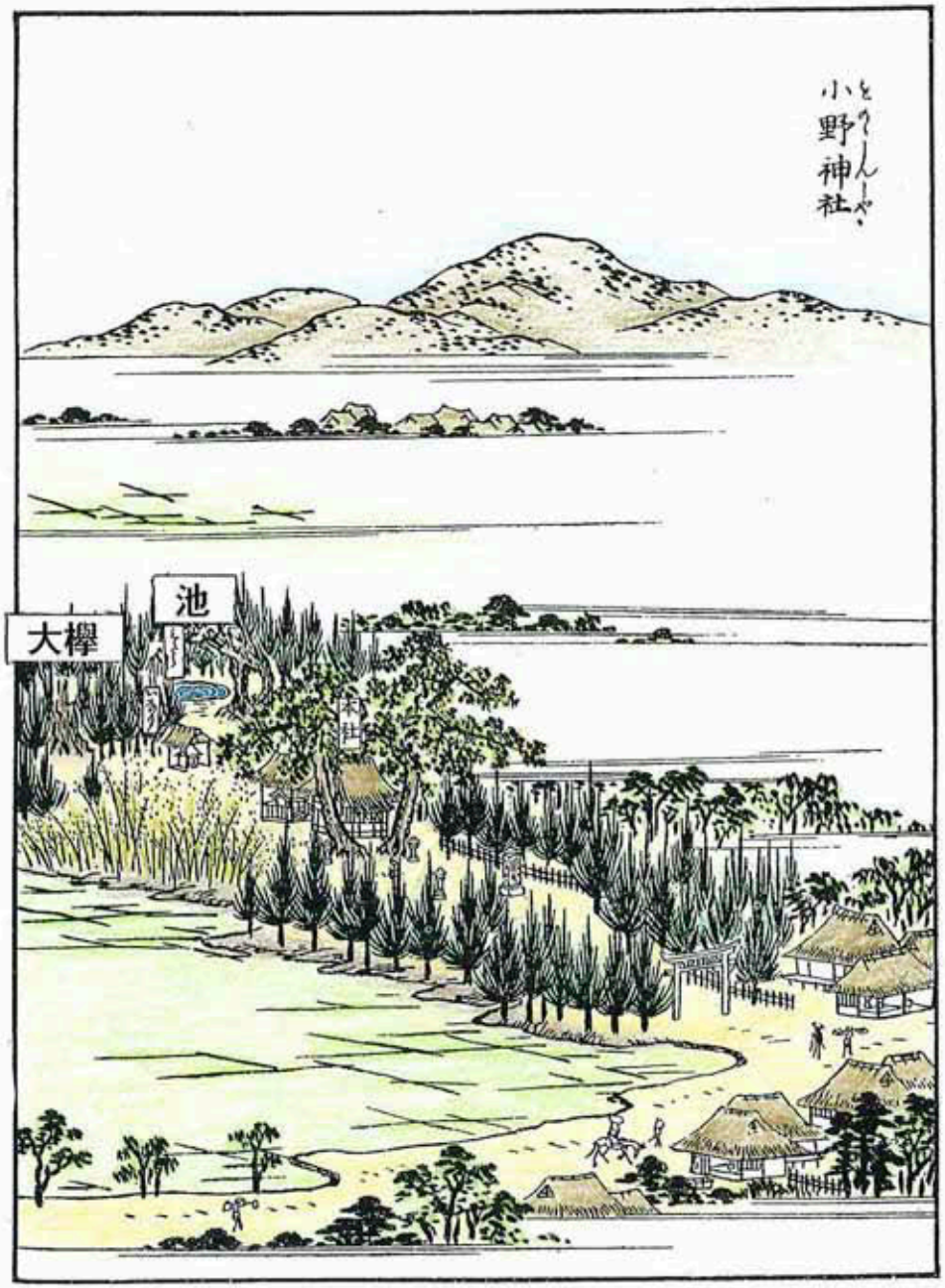
櫛枯樹 社の後にあり。今蟠根を存するのみ。

殆二千餘歳の想あり。

多摩市の小野神社

- 大國魂神社はこちらを一の宮としている。
- 「一の宮」の初見は平安時代末期で『延喜式』(905～927)の神名帳には一の宮の名はない。
  中世以降の名。
- 神社としてはこちらの方が栄えた。

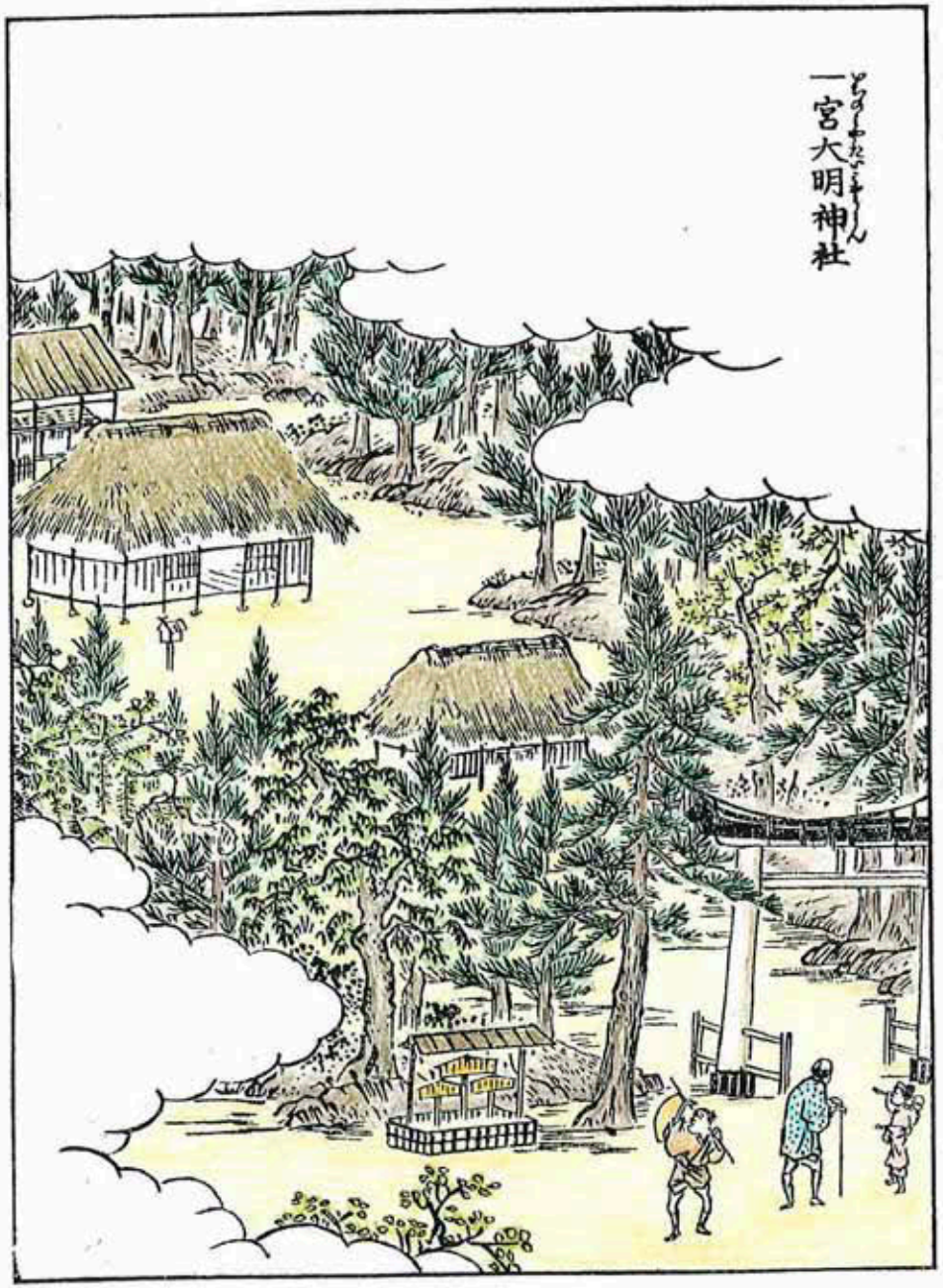
《府中市住吉町》　府中の小野神社



江戸名所圖會　巻三

うしろに大ケヤキが2本ある。

《多摩市一ノ宮》　多摩市の小野神社



江戸名所圖會　巻三

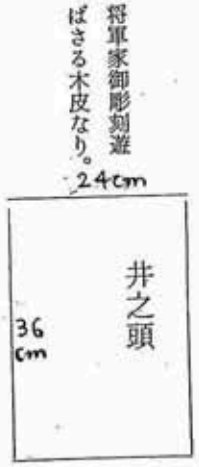
86 《三鷹市》井頭池

三鷹市井の頭

井の頭弁財天

井頭池　神田上水の源なり。長さは西北より東南へ曲りて三百歩ばかり、幅は百歩あまりあり。池中に清泉涌出する所七所ありて、旱魃にも潤るる事なし。故に世に七井の池とも稱ふ。相傳ふ、慶長十一年、大神君適々こゝに至らせ給ひ、池水清冷にして、味の甘美なるを賞揚し給ひ、御茶の水に汲ませらる。又寛永六年、大將軍家こゝに渡御なし給ひ、深く此池水を愛させられ、大城の御許に引かせらるべき旨釣命ありて、御手自池の傍なる辛夷の樹に、御小柄をもて井頭と彫り付けたまふ。是より後此池の名とす。

- 湧水地のある井頭池は、古くから人の住んでいた所で、昔の地名は武州多東郡牟礼村といいました。
- 本尊の天女像は奈良時代後期の作で、「源氏の祖の源経基が安置し、その後頼朝が堂を再建した」と縁起書にはあります。



井の頭とは……

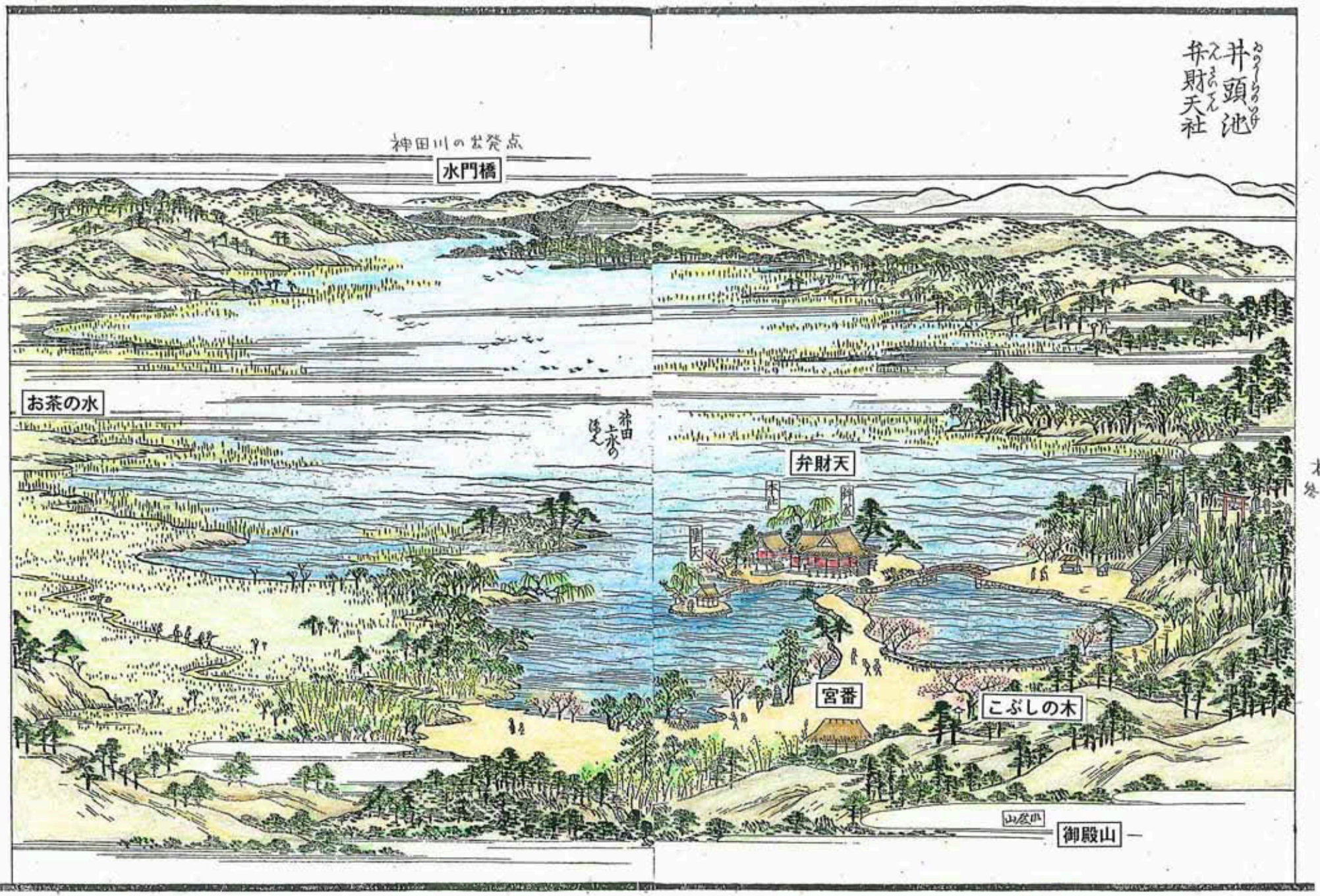
- 寛永6年(1629)の春3代将軍家光公が御成になった時、ここを"井の頭"と命名し、こぶしの木にその名を彫った。
- となりの大盛寺にその木の皮が寺の宝としてあるという。

『武蔵名勝図会』
文化3年(1820)

- お茶の水
  家康公がお茶を点てた湧水。
- 井の頭公園は大正6年の開園。平成29年5月1日開園100周年を迎えた。

いのかしらのいけ

井頭池　神田川の水源地



《小金井市》

87 小金井橋

＝江戸の桜の名所＝

小金井市桜町

大正１４年史蹟として指定された。

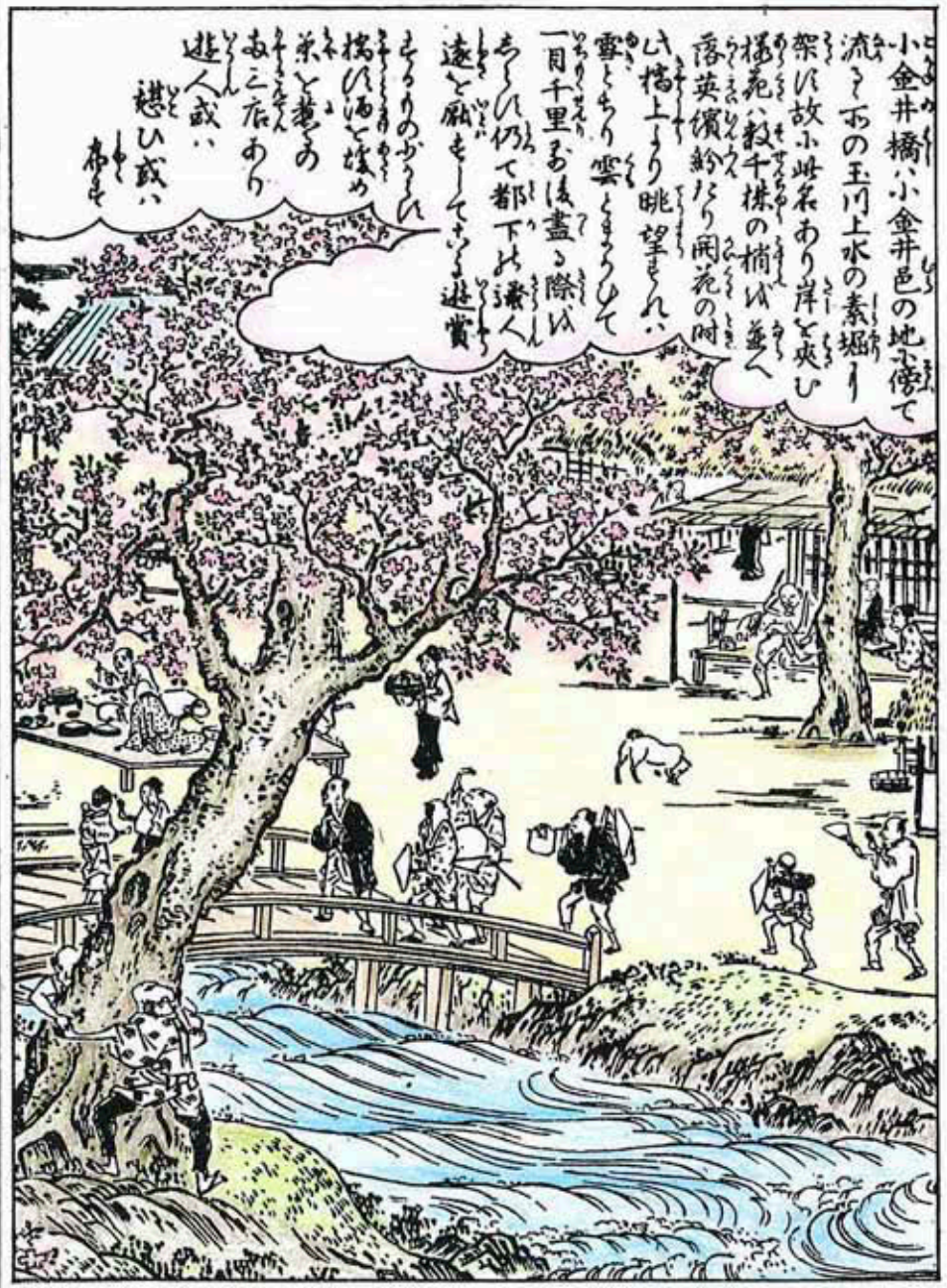
絵と同じ方向から見た小金井橋。下を玉川上水が流れている。ここが花見の中心地。ガソリンスタンドの所には料亭があった。

陣屋橋付近。江戸中期の元文２年（１７３７）８代将軍吉宗の命で府中押立町の名主川崎平右衛門が桜の苗木を１万本程植えたのが始まりで約６ｋｍある。

《小金井市桜町》

桜の名所 小金井橋

〝桜の花が数千株もあり、近郊の人ばかりでなく遠くから来る人も多い〟とある。



江戸名所圖會　巻四

金井橋

此地の櫻花は享保年間或は云ふ元文二年丁巳。郡官川崎某台命を奉じ、和州吉野山および常州櫻川等の地より櫻の苗を植ゑらるゝ所にして、其數凡一萬餘株ありしとぞ。

本造にごり酒とある

《国分寺市》

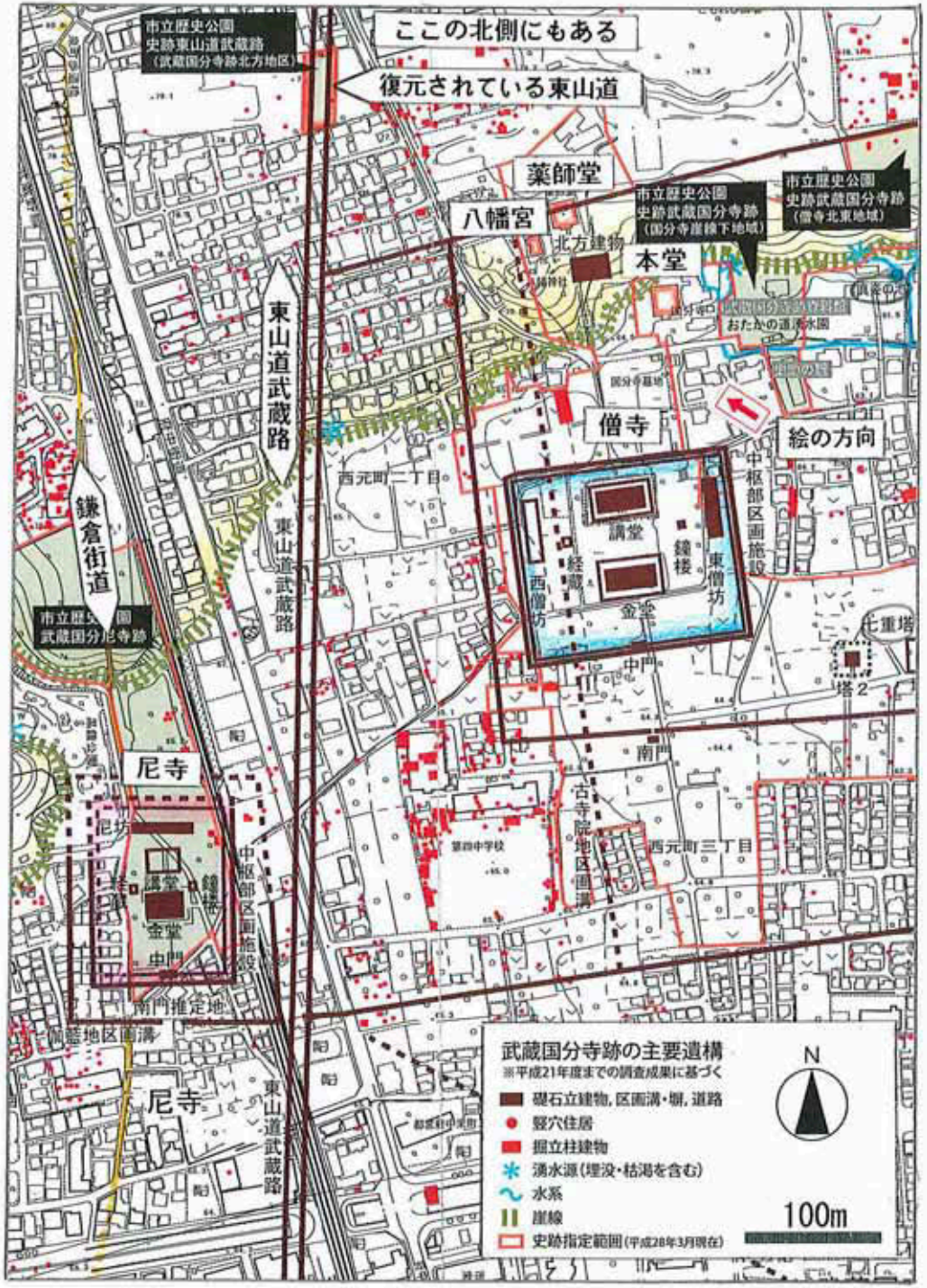
＝聖武天皇の詔によって造られた全国六十余の国分寺の一つ＝

88 醫王山 国分寺

国分寺市西元町 一の十三

現在の寺などは江戸中期に再建されたもので、上の薬師堂の左側の八幡宮が元はここにあって国分寺を守っていたと思われる。絵と同じ方向から見た写真。

近くには東京の名水５７選の１つの「真姿の池」がある。弁財天が祀られている。



武蔵国分寺の周辺図　　平成２８年　国分寺市教育委員会

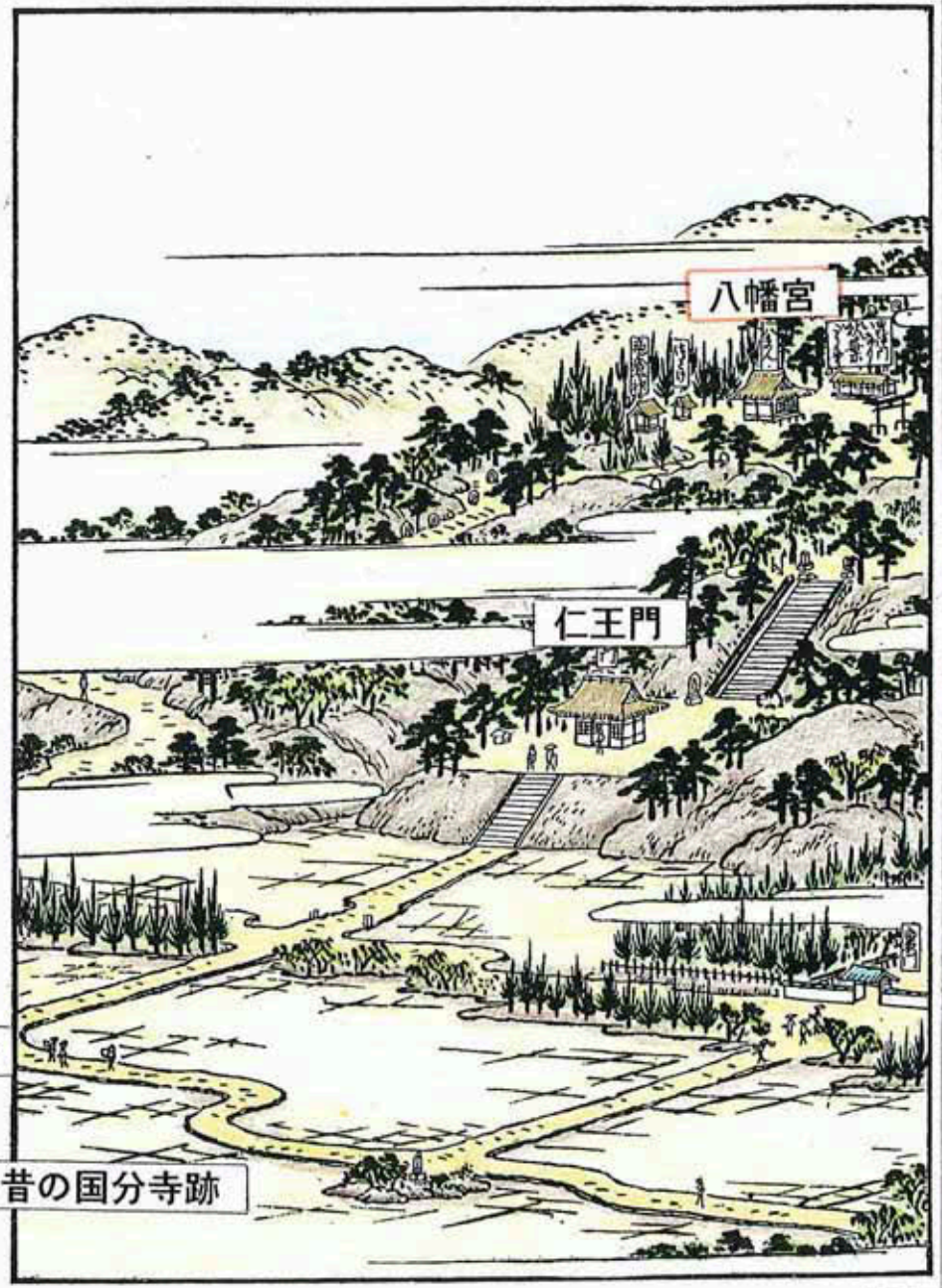
《国分寺市西元町》

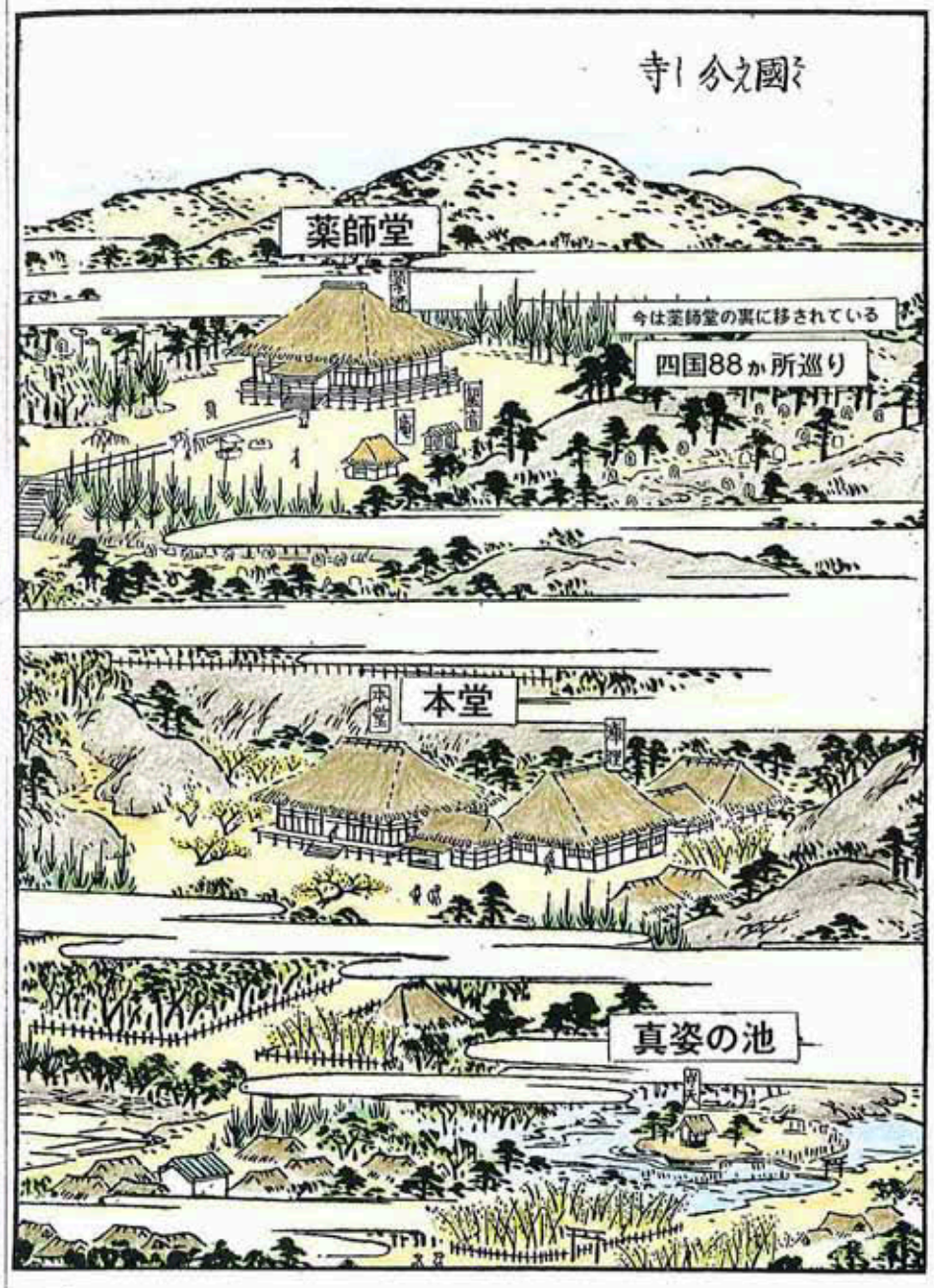
奈良時代　華厳宗
江戸中期　真言宗

国分寺

（金光明四天王護国之寺）〜ここの武蔵国分寺は奈良時代の天平宝字元年（７５７）に完成したとされている。
（医王山最勝院国分寺）

醫王山國分寺　寂勝院と號す。國分寺村にあり。府中より北の方十八町を隔つ。當寺は天平年間行基菩薩草創する所にして、聖武天皇の勅願所なり。『金光明四天王護國之寺』





七重塔跡

江戸名所圖會　巻三

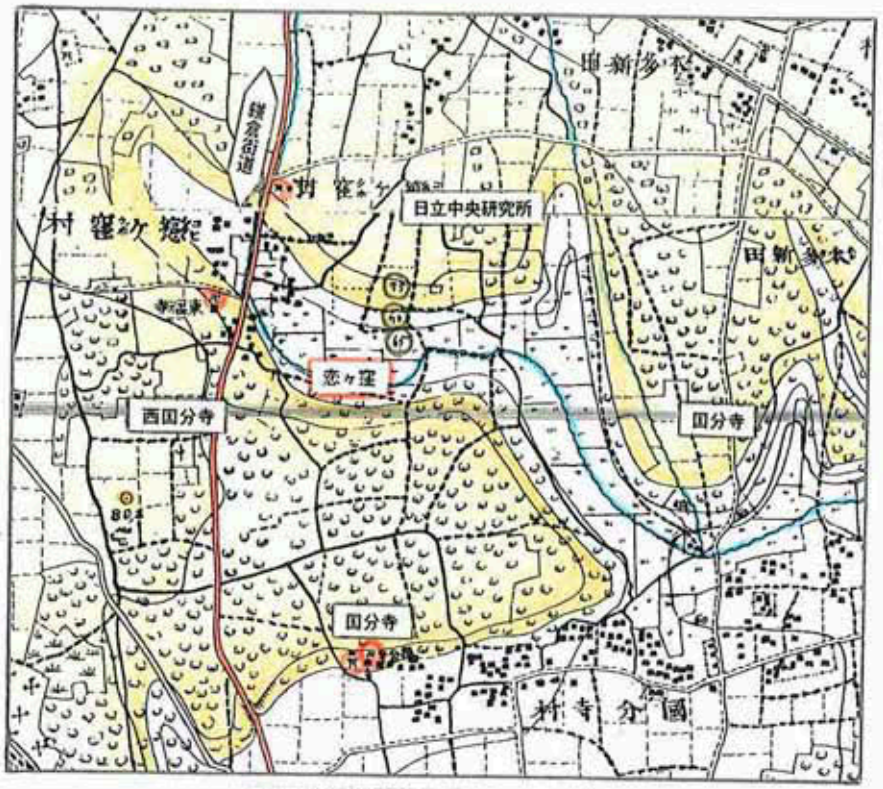
89 恋が窪

国分寺市西恋ヶ窪 一丁目

＝古代からの交通の要所で野川の水源の湧水地＝

絵の左下の阿弥陀堂の跡が今でもあり墓が並んでいる。

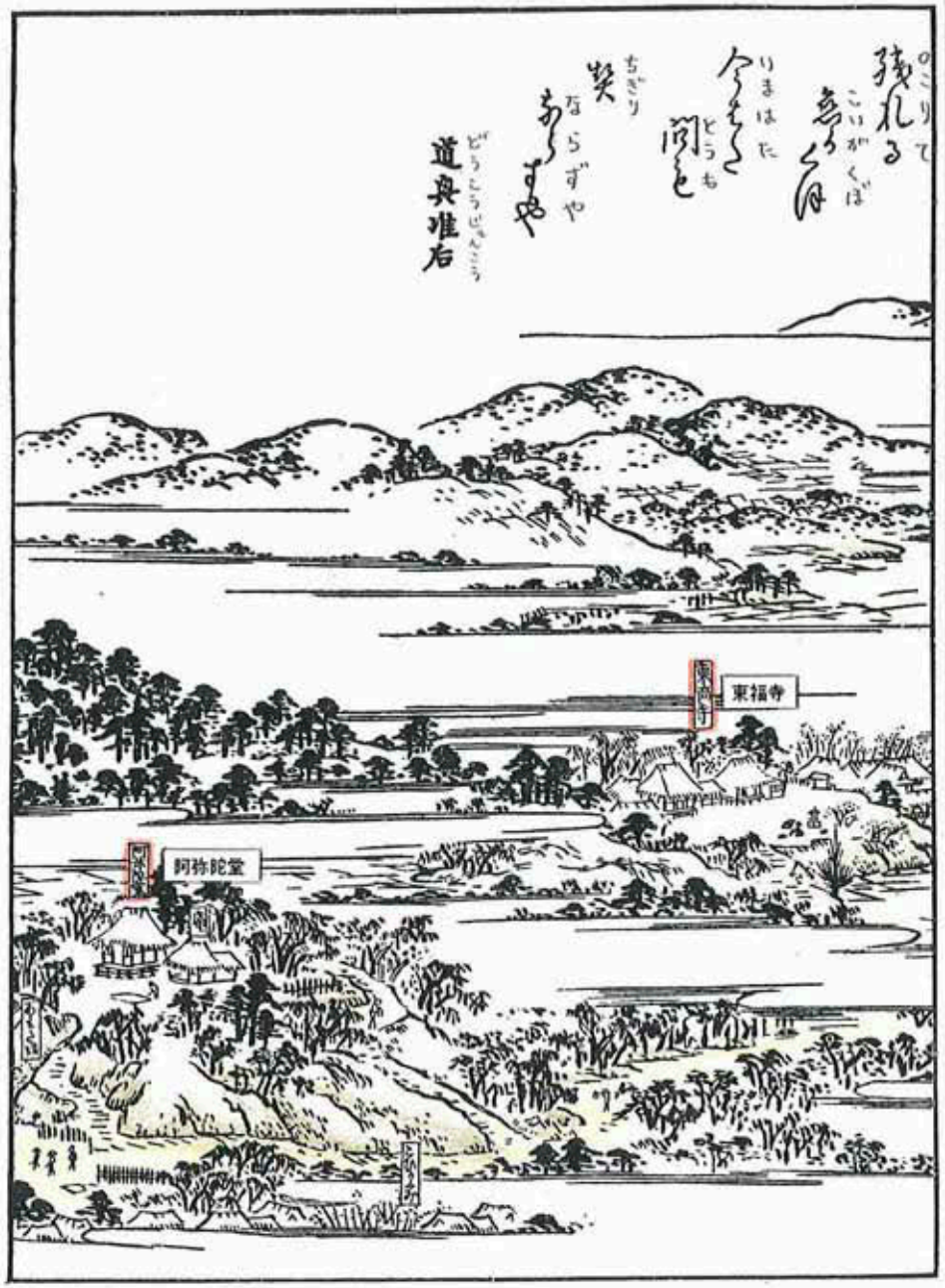
野川の源流で姿見池がある。となりの日立中央研究所の内からも湧水が出ている。

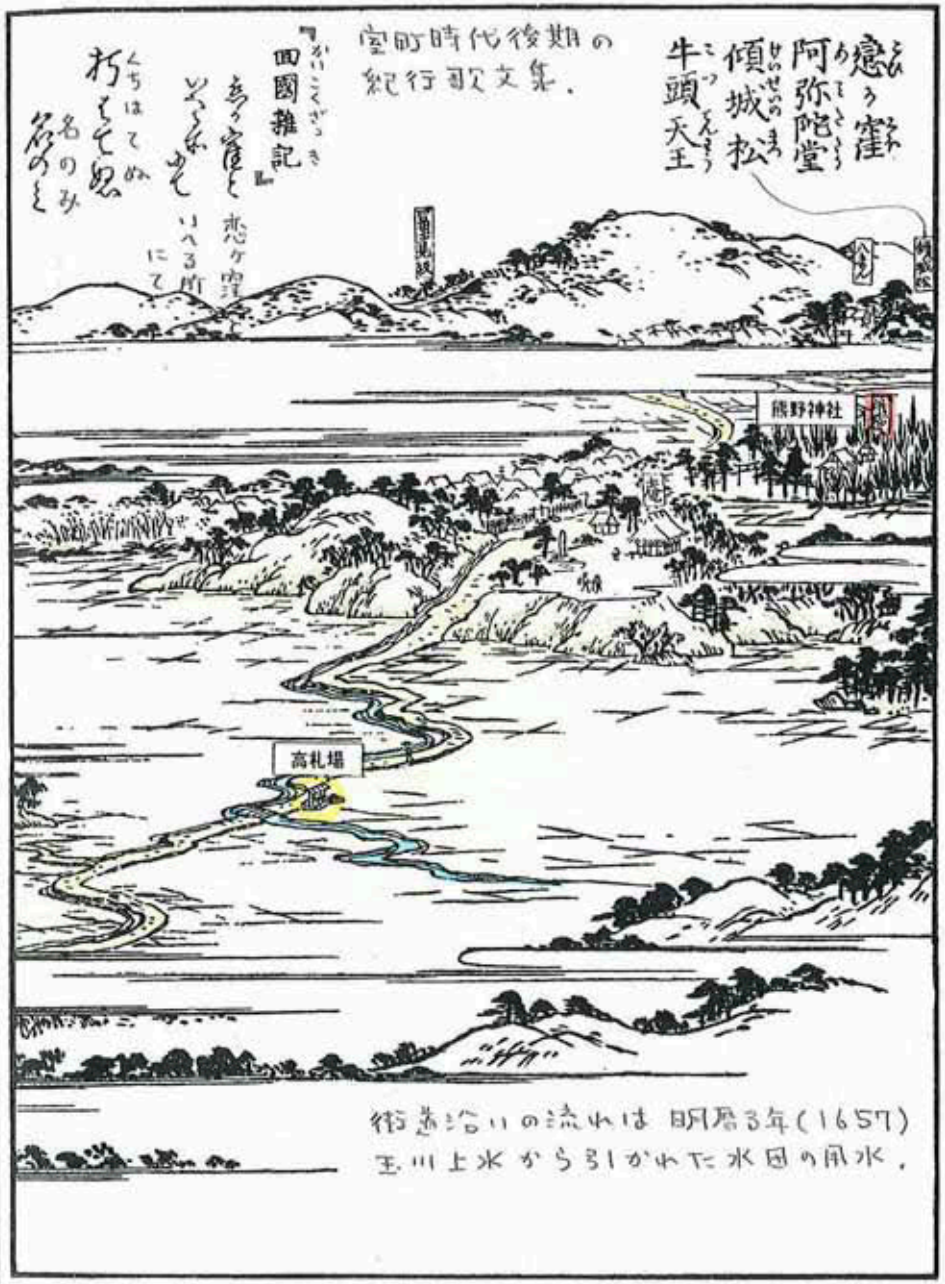


明治前期の頃の周辺地形図

恋ヶ窪

東山道武蔵路が通り、古くからの鎌倉街道の宿場があった所で
畠山重忠と遊女の話などが残っている街道の休憩地だった。





江戸名所圖會　巻三

戀が窪　同所坂より下の低き地をいふ。古東奥北越等の國々より、京師及び鎌倉等へ至るの驛路にて、其頃は遊女の家居などありて、いとにぎはしかりしとなり。

《国立市》

90 谷保天神社

国立市谷保 五二〇九

＝菅原道真を祀る古社で甲州古道の方を向いている＝

谷保天神の旧地の碑。ここが古多摩川の跡で天神島はこの近くにあった。府中市日新町２－３１

元は平安時代前期の延喜３年（９０３）旧地で創建された古社。今の社殿は江戸時代末期の造営によるもの。

今の神社の北側の甲州街道にあった清水の立場（休憩所）夏場の風景。

平成１２年に撮った源泉。今はない。

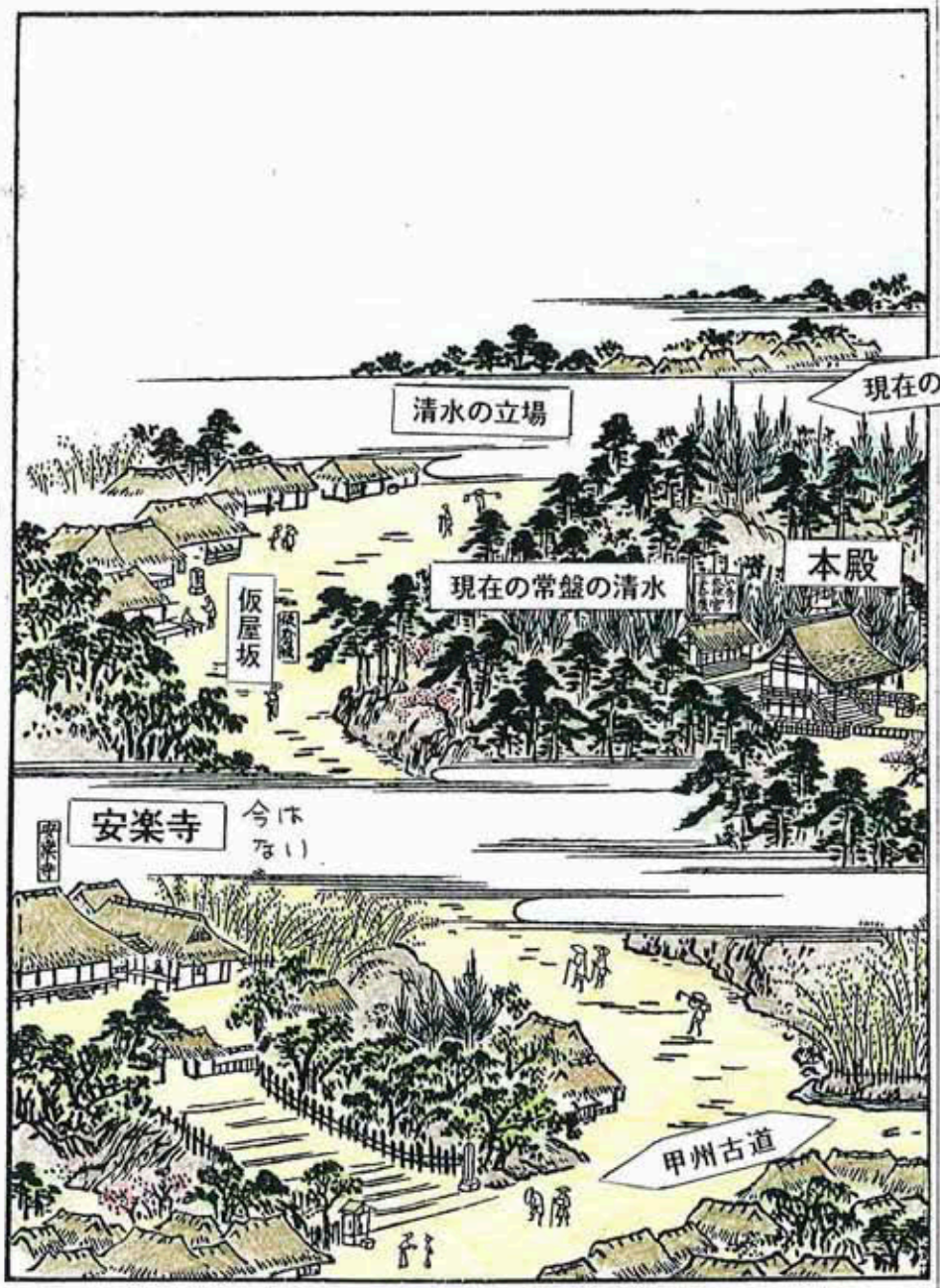
古い多摩川はこの下の方を流れていた。

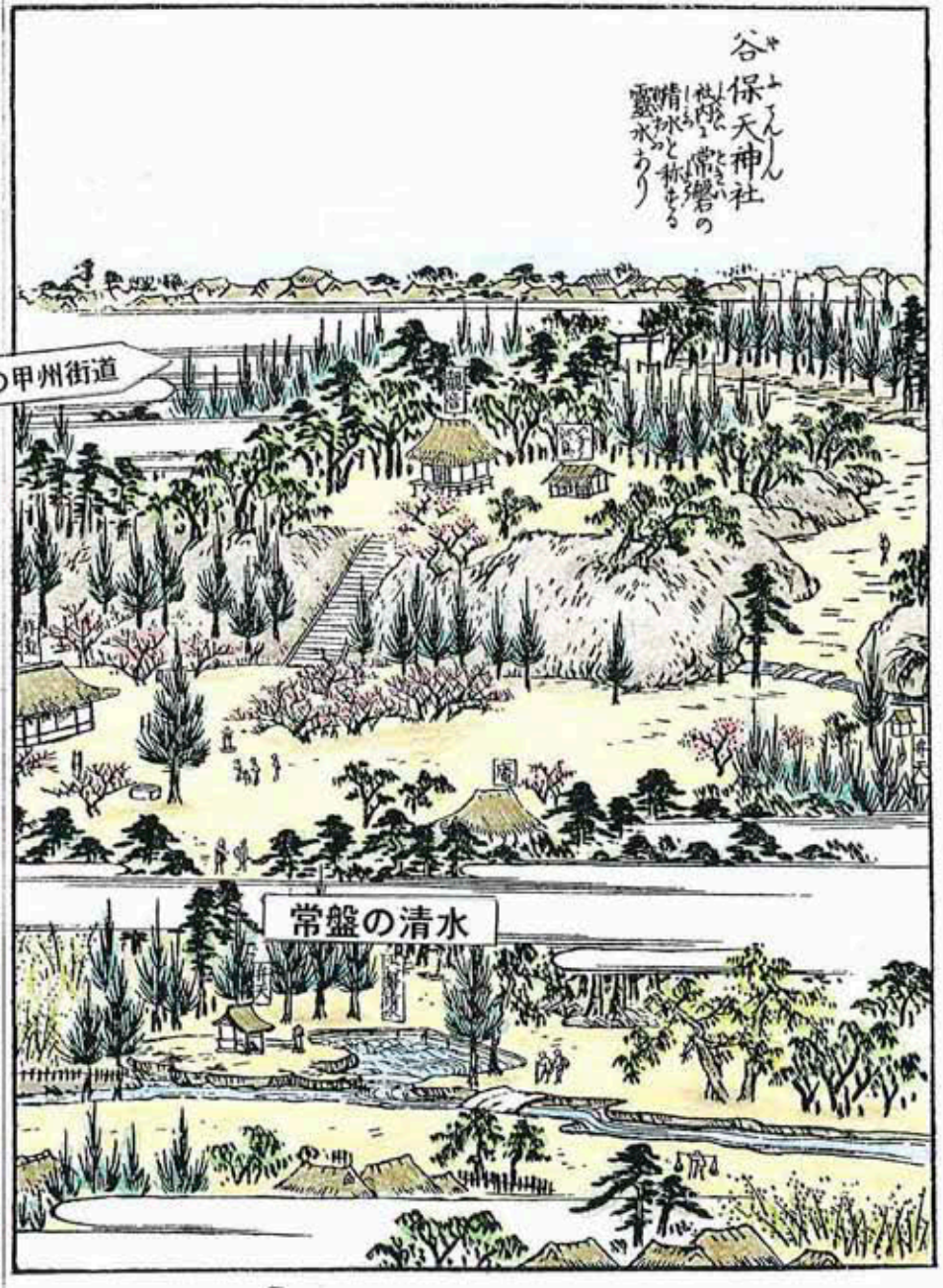
谷保天神社

平安時代後期の養和元年（１１８１）府中の天神島から今の所へ移る。甲州古道が通っていた南側の方向を向いている。

谷保天神社　同じ街道西の方、谷保村道より左側にあり。

當社往古天神島と稱ふる地より、今の地に遷座なし奉りしなり。





常盤清水　裏門出口、道の端に小き池あり。中島に辨財天を安置す。清泉湧出する事尤夥しく、下流水車を設けて日用の助とせり。

常盤とは「とわに水が湧く」がときわになった。

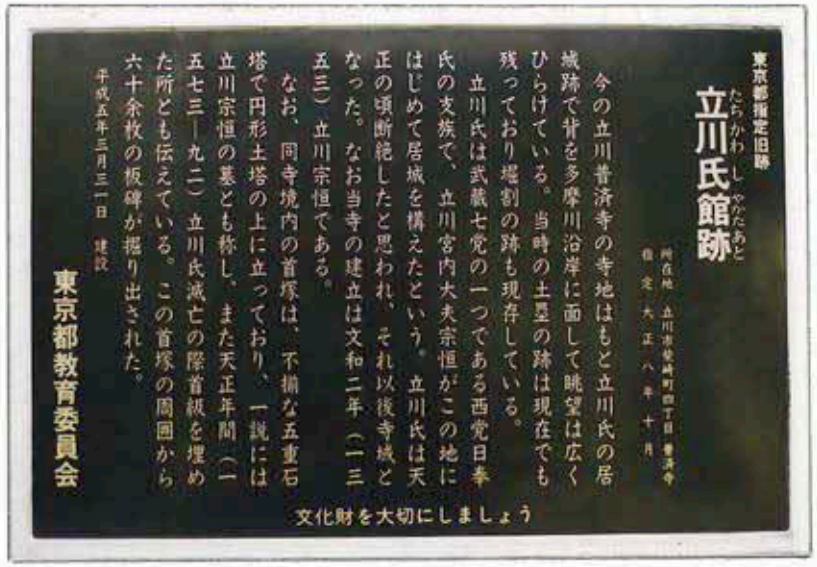
《立川市》

91 玄武山 普済禅寺

立川市柴崎町 四の二十

＝大正2年に国宝に指定された「六面幢」がある＝

中門が残っていたが東日本の震災で倒壊してしまった。土塁はまだ残っている。現在の本堂は放火で焼失平成１６年に再建されたもの。



東京都指定旧跡

立川氏館跡（たちかわしやかたあと）

所在地　立川市柴崎町四丁目　普済寺
指定　大正八年十一月

今の立川普済寺の寺地はもと立川氏の居城跡で背を多摩川沿岸に面して眺望は広くひらけている。当時の土塁の跡は現在でも残っており堀割の跡も現存している。

立川氏は武蔵七党の一つである西党日奉氏の支族で、立川宮内大夫宗恒がこの地にはじめて居城を構えたという。立川氏は天正の頃断絶したと思われ、それ以後寺域となった。なお当寺の建立は文和二年（一三五三）立川宗恒である。

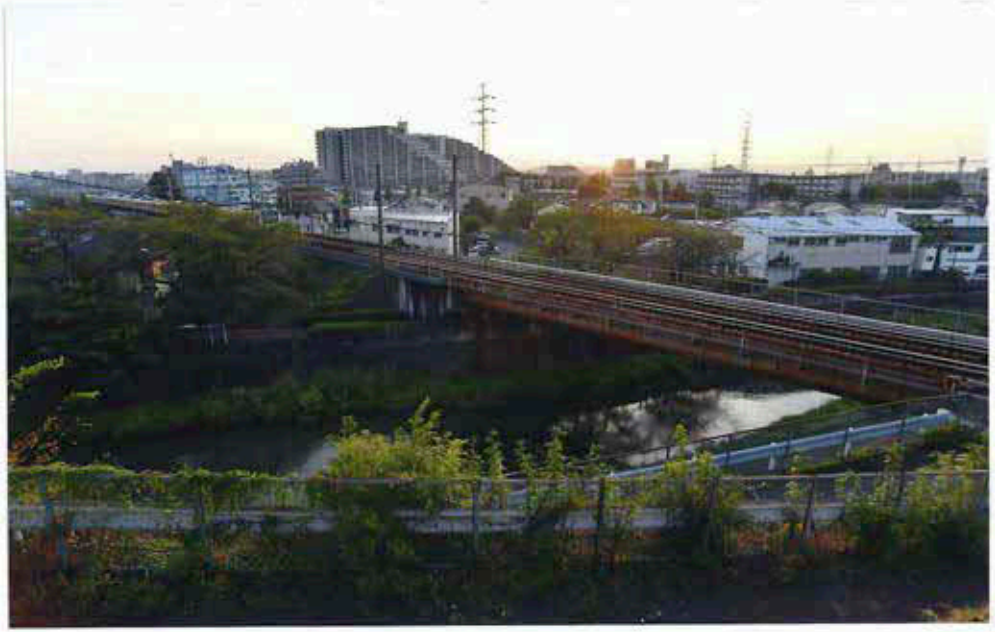
なお、同寺境内の首塚は、不揃な五重石塔で円形土塔の上に立っており、一説には立川宗恒の墓とも称し、また天正年間（一五七三―九二）立川氏滅亡の際首級を埋めた所とも伝えている。この首塚の周囲から六十余枚の板碑が掘り出された。

平成五年三月三一日　建設

東京都教育委員会

文化財を大切にしましょう

立川氏館跡の解説板



残堀川から日野の方を望む高台にある。

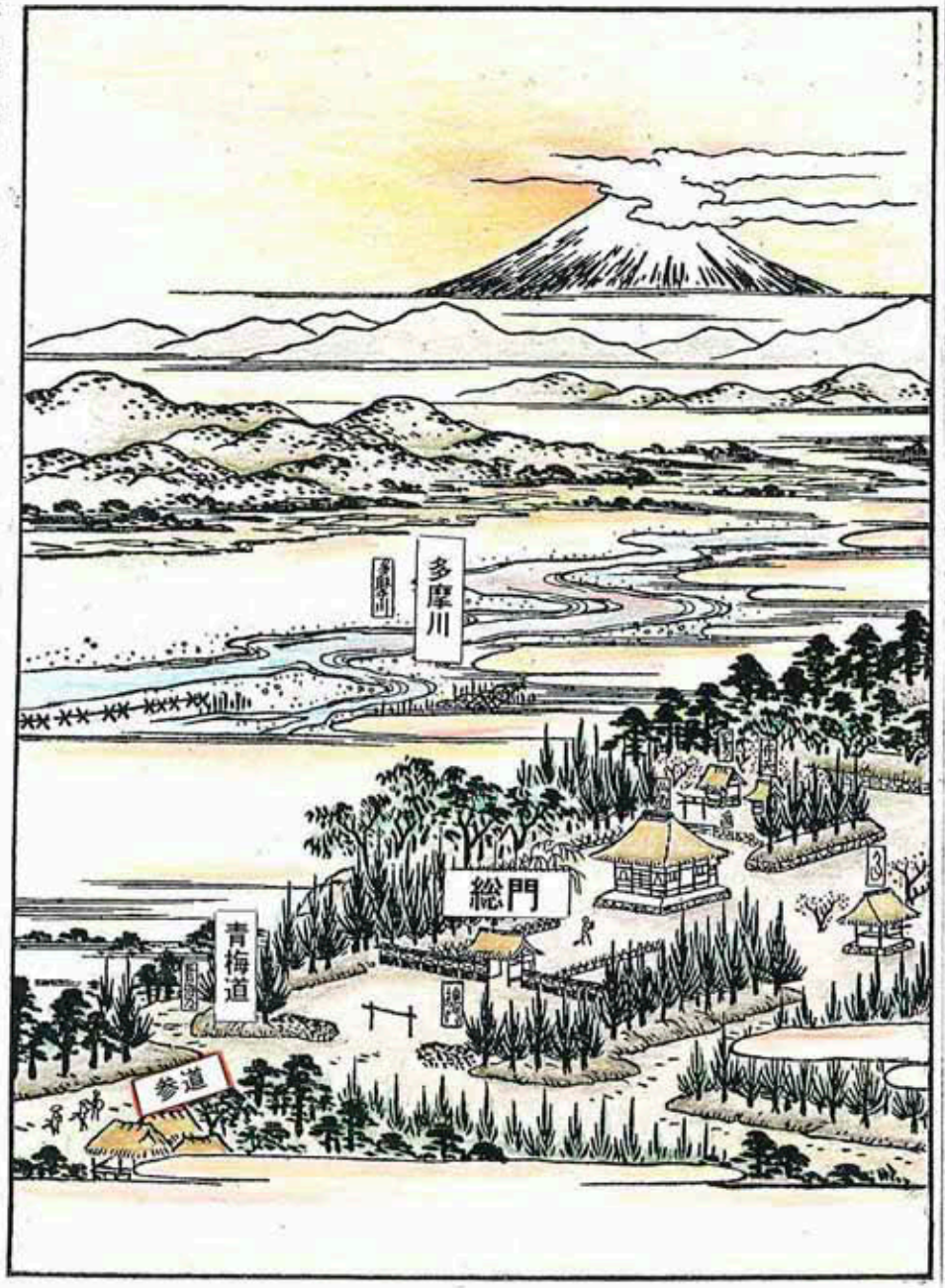
《立川市柴崎町》

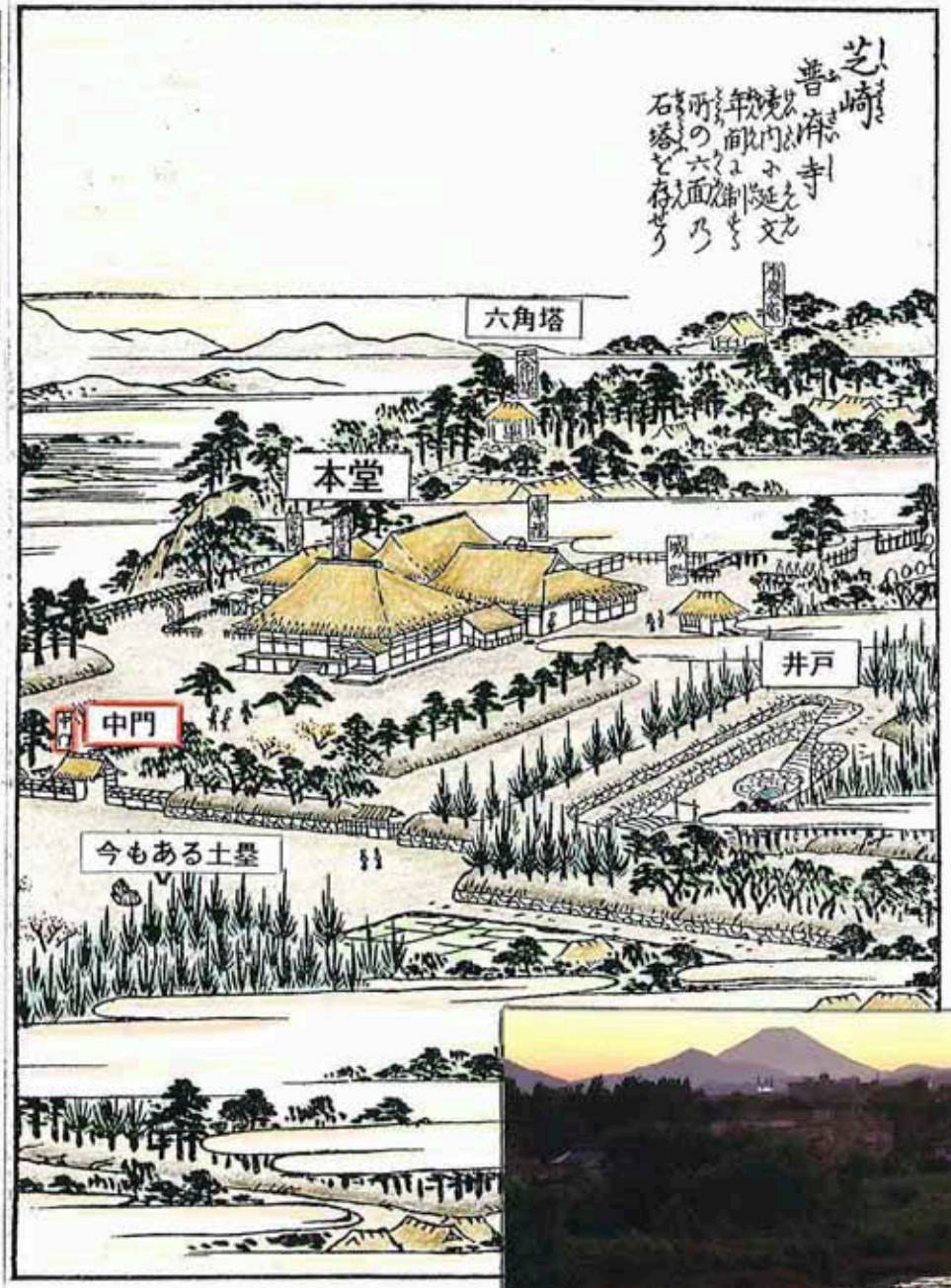
臨済宗　**立川の普済寺**

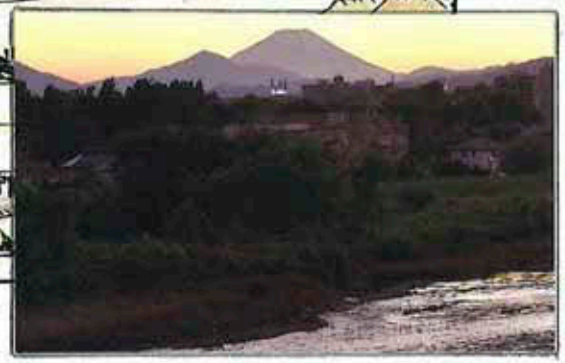
武蔵七党の西党の支族 立川氏の館跡

室町時代初期の文和２年（１３５３）に立川宗恒が建立した臨済宗の寺。

玄武山普済禪寺　日野渡口より此方の岸頭を右へ十町計入りて、芝崎村と云ふにあり。此所を立川と云ふ。當寺境内の地は、多摩川の流に臨み、勝景の地なり。







江戸名所図会　巻三

《日野市》

92 高幡山 金剛寺（高幡不動）

日野市高幡 七三三

天慶三年（九四〇）開基

＝関東三不動の一つで成田不動より古い＝

（高幡・成田・大山不動）

現在の不動堂は元は本堂の裏の山の上にあったが台風で倒れ室町時代初期の康永元年（１３４２）今の所へ移った。今の五重塔は昭和５５年観光用として建てられた。

『日野市ガイドマップ』

高幡城（たかはたじょう）

①日野市高幡町 ②③④―― ⑤山城 ⑥郭・土塁・空堀 ⑦一〇〇m×二五〇m、標高一三〇m、比高五〇m ⑧―― ⑨『新編武蔵国風土記稿』

高幡城本丸跡。鎌倉時代の初期武蔵七党の１つ西党の日奉氏の流れをくむ高幡氏が居城。

せいたか童子像　重文
平安時代　230.4cm
制吒迦：贅語で後僕

不動明王像　重文
平安時代　285.8cm
約１トン

こんがら童子像　重文
平安時代　193.2cm
矜羯羅：贅語で後僕

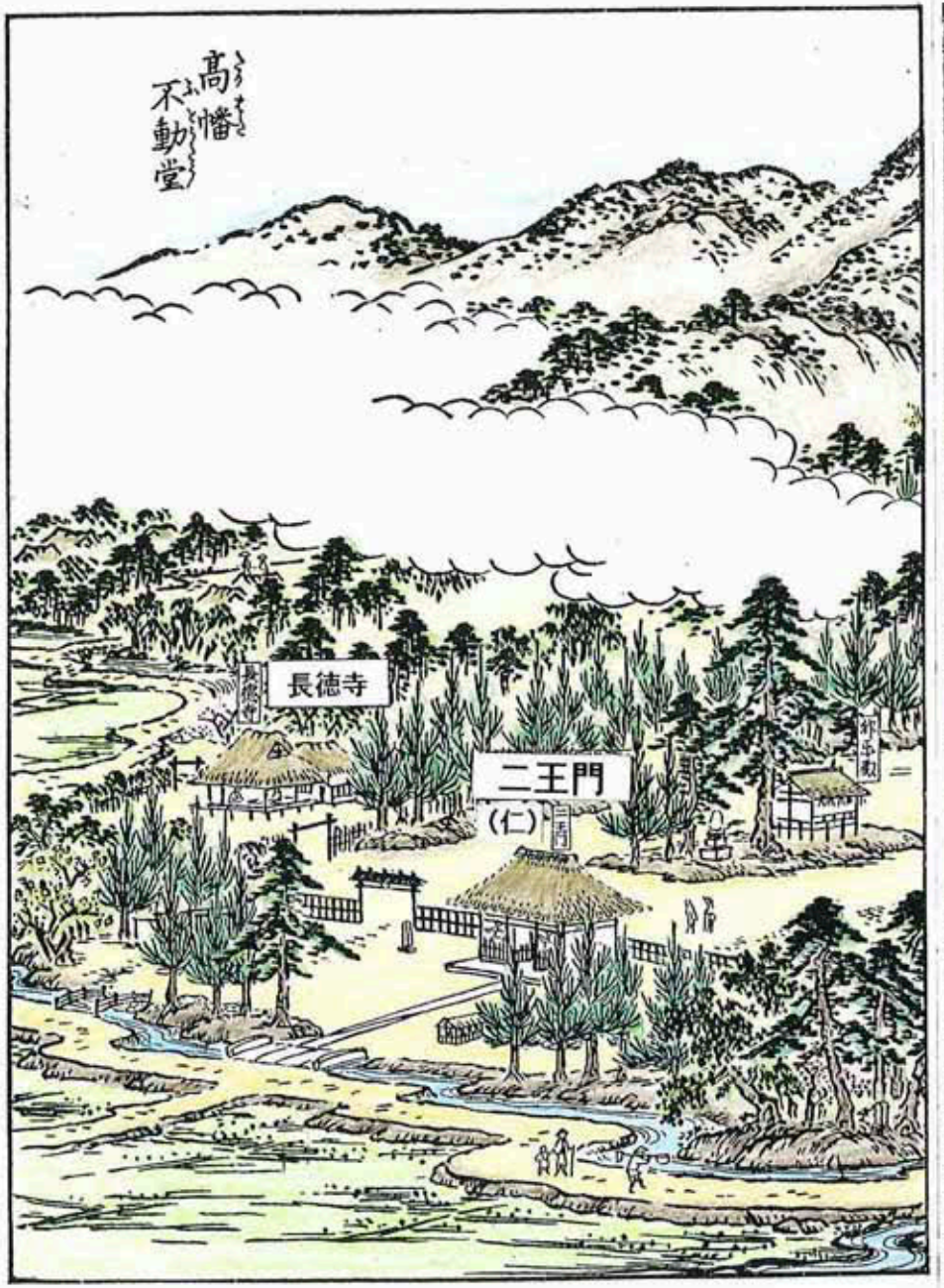
平成９年から３年がかりで京都で修復された。　資料 高幡不動

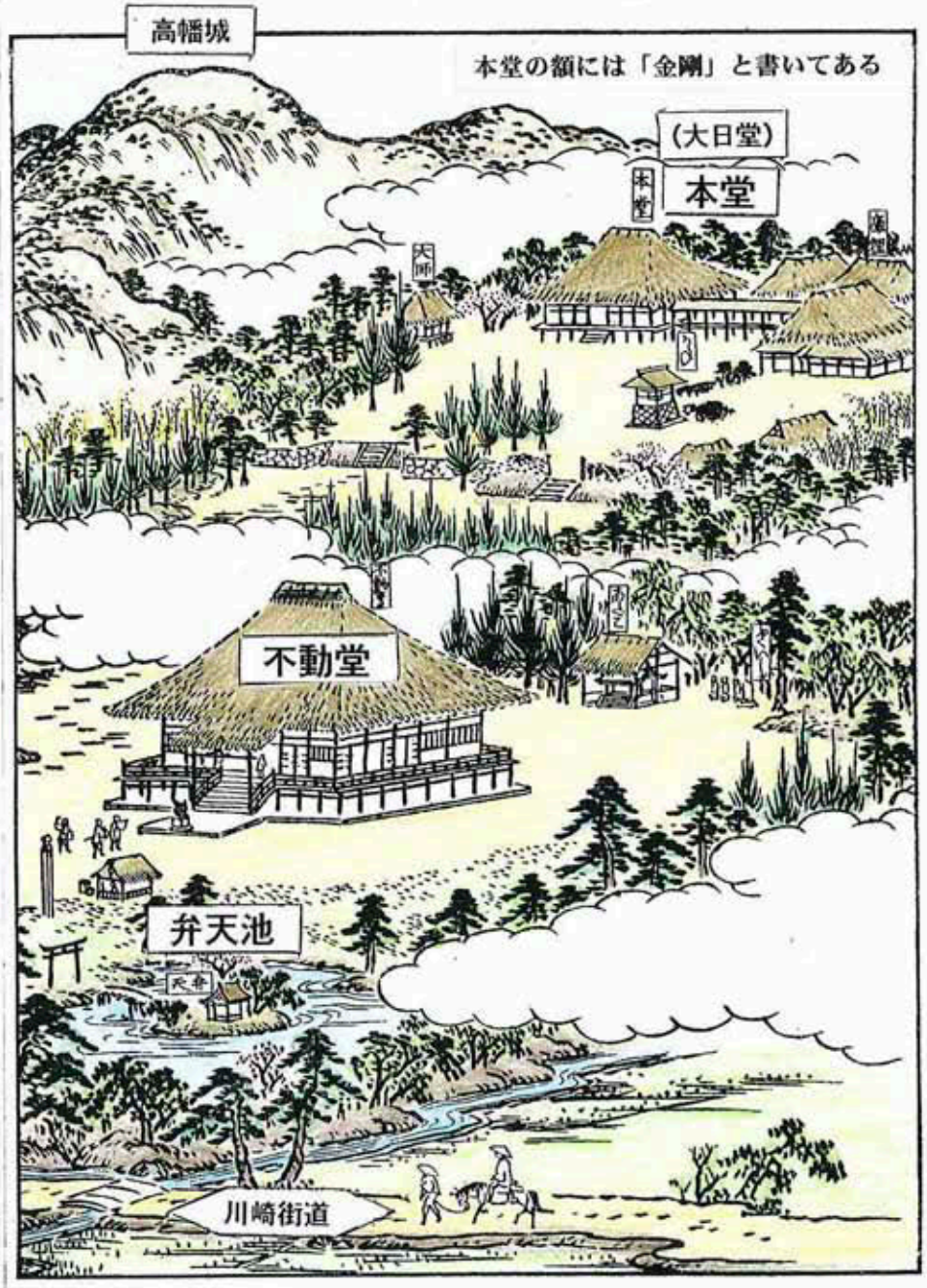
《日野市高幡》

真言宗　**高幡不動**（高幡山明王院金剛寺）

大和時代末期の大宝年間（７０１～７０４）以前に開かれたという。

高幡山金剛寺　高幡邑にあり。「東鑑」に高幡三郎と云ふ人の名あり。此所より出づる歟。新義の真言宗にして、花洛三寶院御門跡に属す。大寶より以前の開創にして、其後弘法大師再興あり。





江戸名所圖會　巻三

93 小山田関旧址

多摩市関戸 五丁目周辺

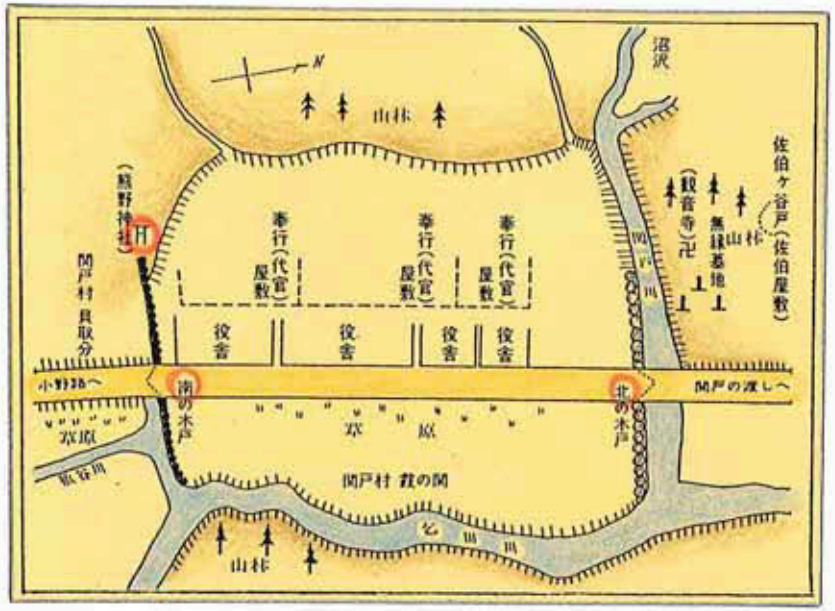
《多摩市》＝武蔵国の国府が近い交通の要衝の地。「小山田」とは荘園の名＝

関所の南の木戸にある熊野神社。鳥居の左奥に木戸の柵の跡が復元されている。

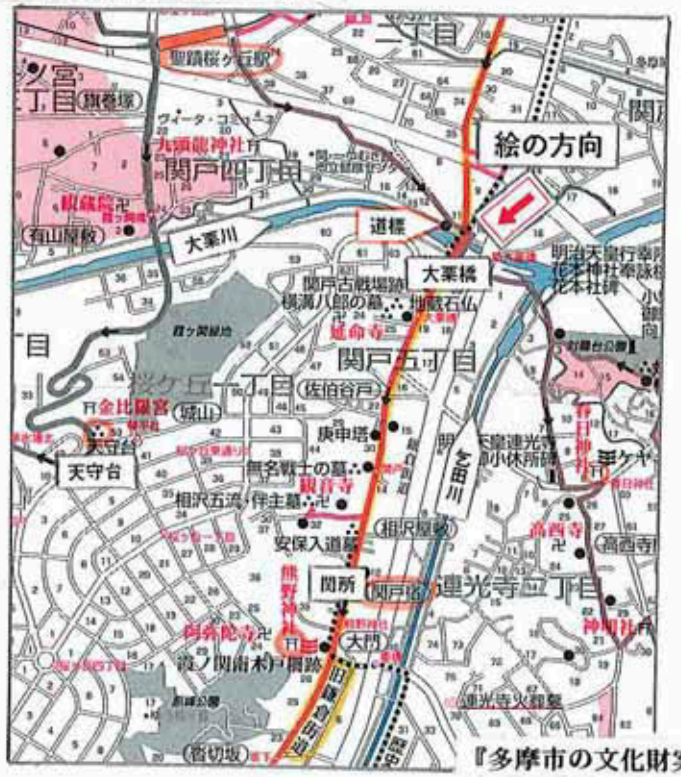
絵と同じ方向から撮った写真

城山の上にある天守台跡の碑。隣に金比羅宮がある。中世の頃に使われた見張台。

関所の復元図



鎌倉時代前期の建暦３年（１２１３）置かれた関所の北の木戸から南の木戸までの図　『多摩市立図書館資料』

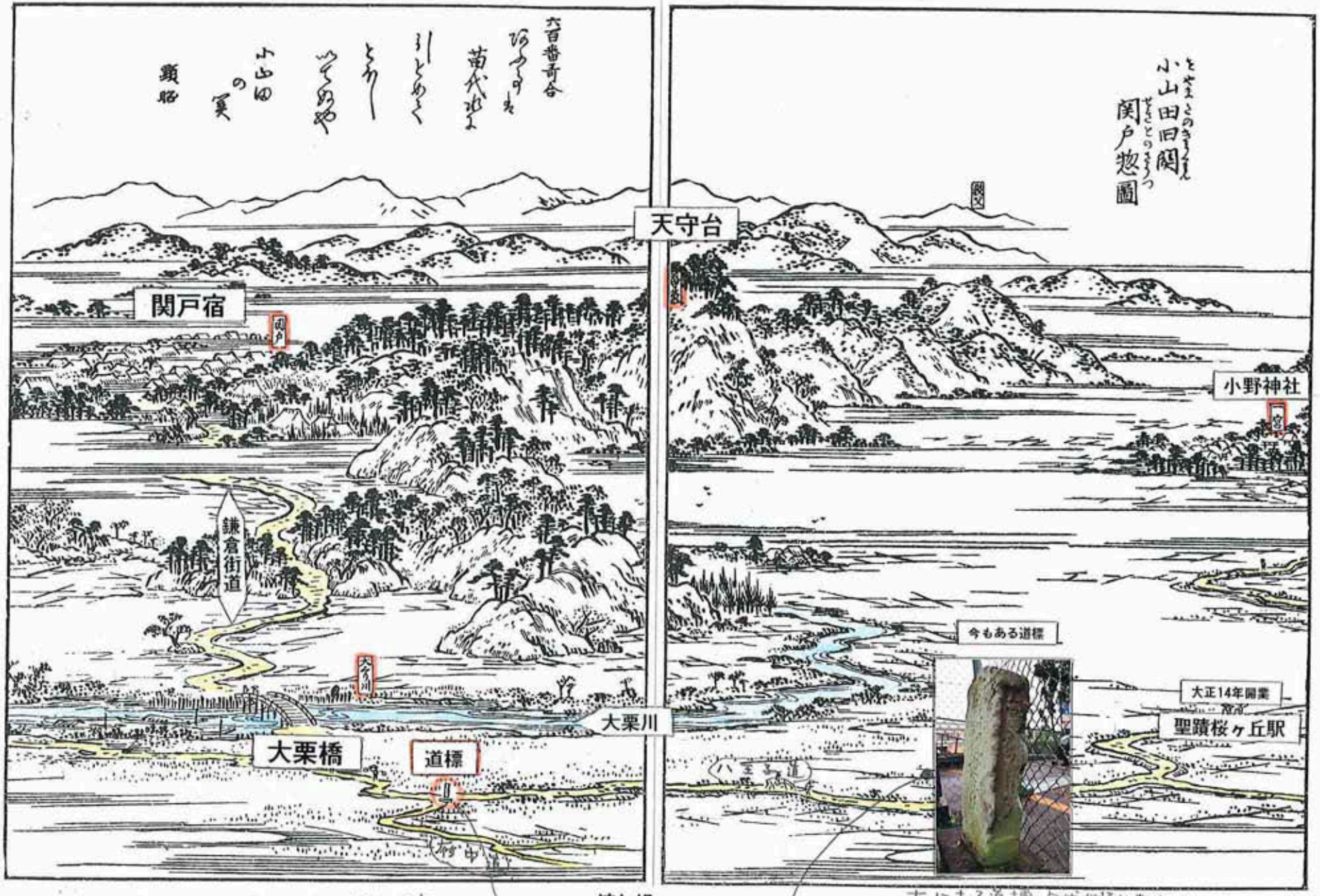


『多摩市の文化財案内』

鎌倉街道の通る関戸

新田義貞が鎌倉を攻めた時に通った道。元弘3年（1333）5月15・16日ここで合戦があった。5月22日鎌倉幕府は滅亡した。

小山田關舊址　今關戸と稱するところ則これなり。或人云ふ、此地熊野社邊左右高札場の地、其關の舊址なりと云ふ。



今の　関戸橋　昭和12年架設

渡し場へ　昭和12年までであった。

左にある道標 年代が読めない。
右 ふちゅう道
正面 馬頭観世音菩薩
左 八おうじ道
とある。

天守臺　同じ山續、西の方にあり。城山の半腹より曲折して、山頂に至るまで老松繁茂す。此所より四望するに尤絶景なり。近頃山頂に金毘羅權現の宮を營建せり。

《神奈川県》

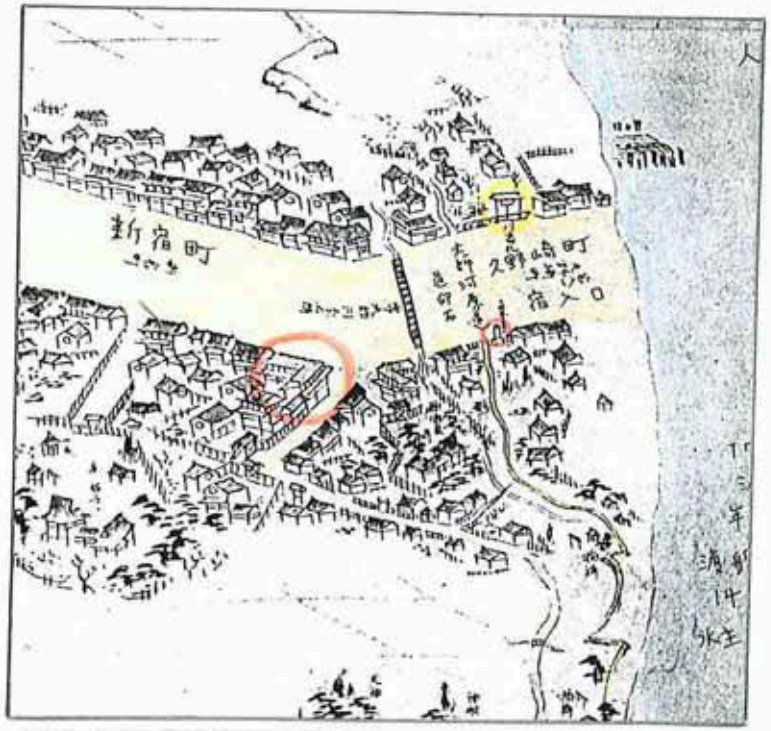
94 河崎（川崎宿）

神奈川県川崎市本町一丁目～小川町

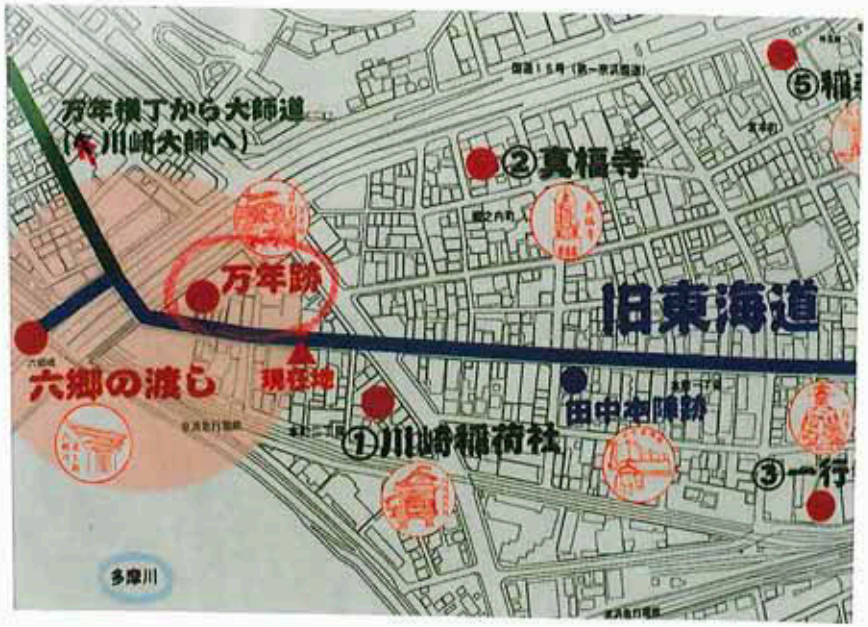
＝川崎宿と川崎大師の参拝道への入口＝

多摩川の六郷橋より川崎宿方面を望む。

旧東海道の川崎宿の入口にあった「万年屋」

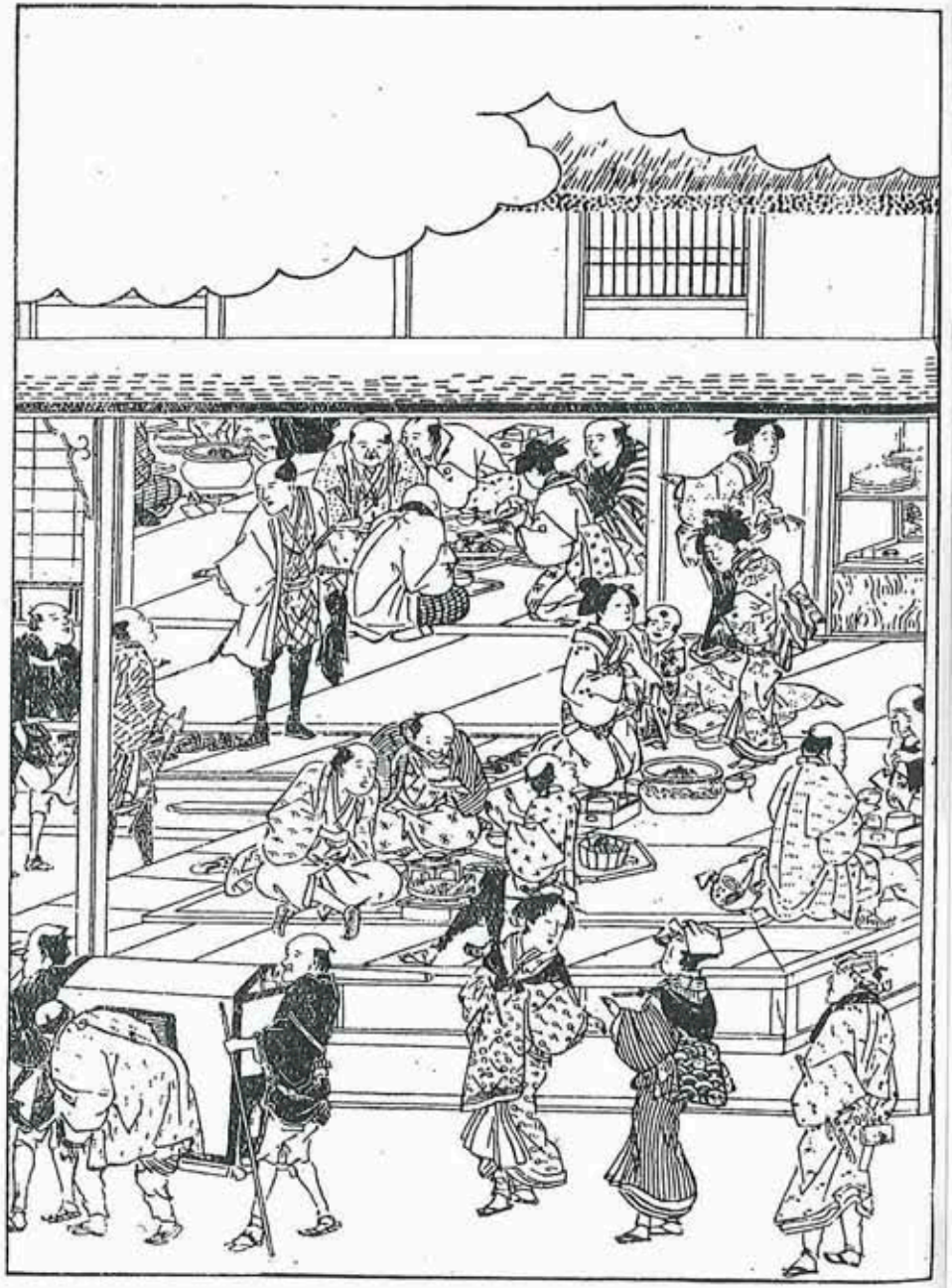


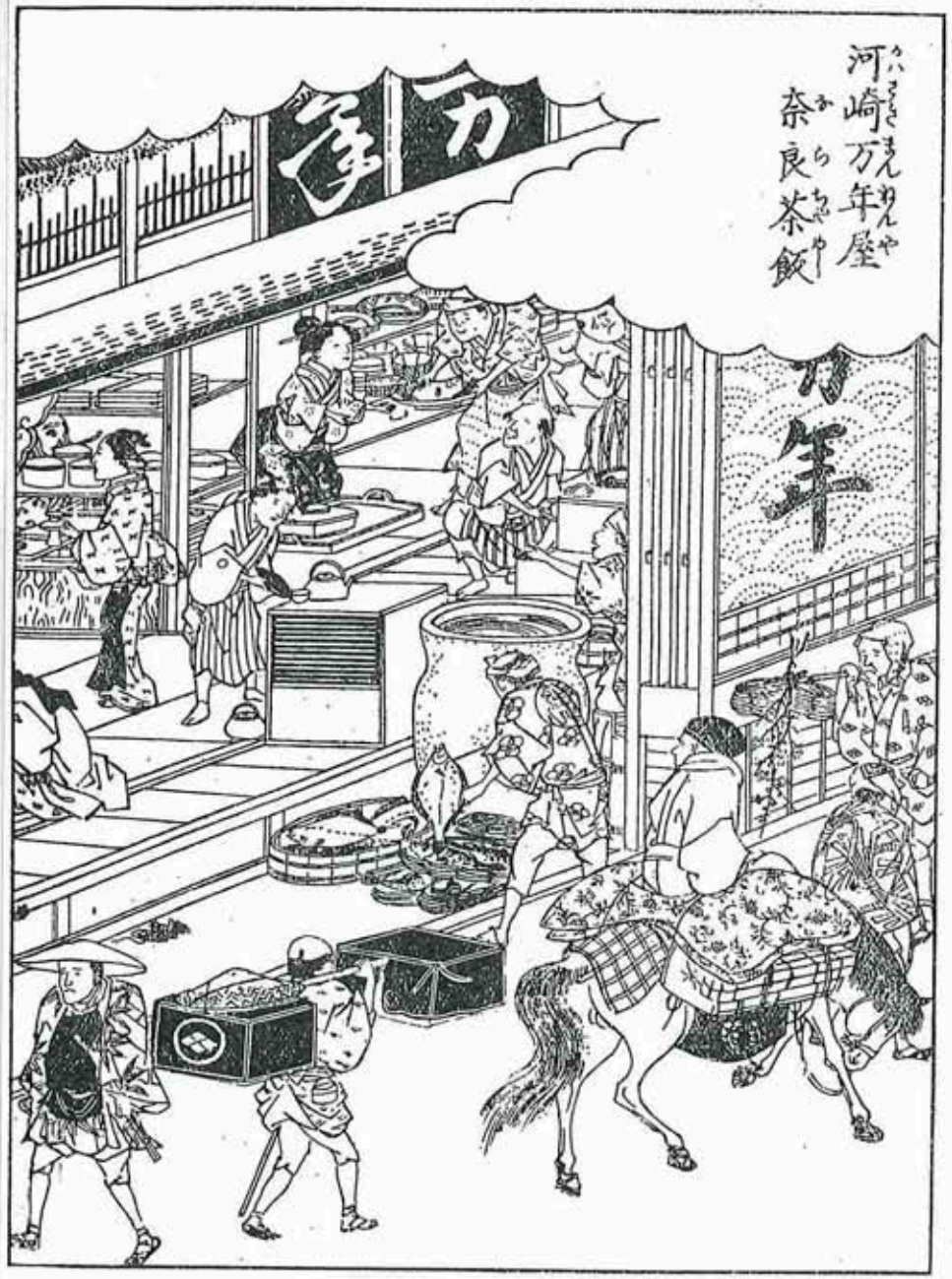
「万年屋」は『東海道分間延絵図』にも描かれている。



河崎万年屋奈良茶飯

明和年間（１７６４～１７７２）の開業で元は一膳飯屋であった。当主は代々「半七」を名乗った。





六郷渡　八幡塚の南にあり。此川は多摩川の下流にして、八幡塚より河崎の驛への渡なり。

河崎　六郷渡口より向の方にあり。東海道官驛の一にして、行程品川より二里半、驛舍數百軒、整々として兩側に聯る。

95 大師巌室

神奈川県川崎市多摩区長尾 三の九

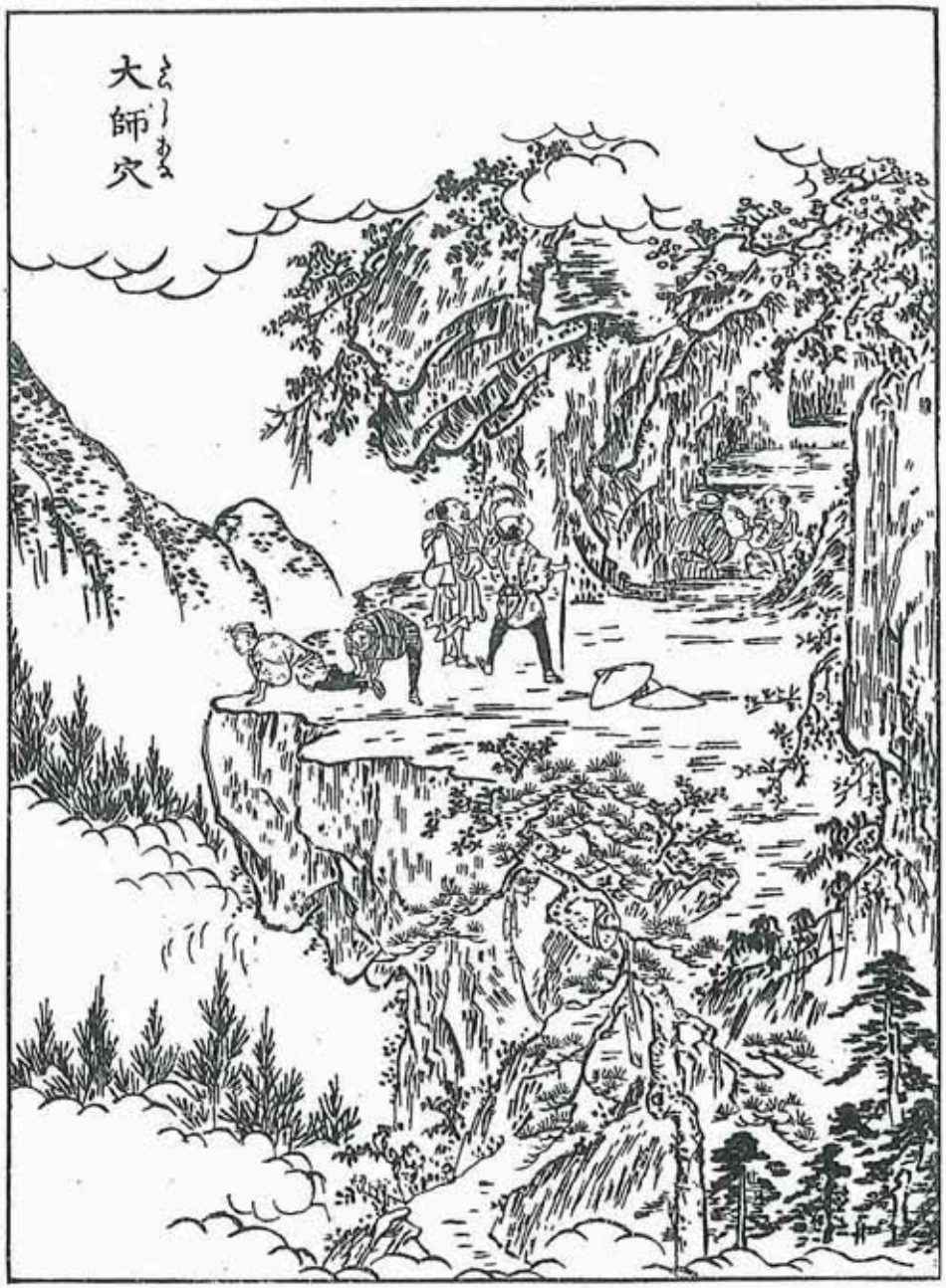
＝JR南武線の宿河原駅の南700m程の所にある＝

寺の裏の道を下って行く。

あじさい寺の妙楽寺の裏手にある。

ここまでしか行けない？

住職さんの同行がないと行けない。住職さんは行ったことがあるという。



江戸名所圖會　巻三

大師巖室　土人大師穴と稱ふ。藥師堂の山の後、西向の所にあり。入口は一間四方ばかりあり、空中は二間四方にして、高も相同じ。享保の頃、一人の山伏心願の事ありとて、斷食にて此窟中に一七日の間籠りたりと云ひ傳ふるのみにて、大師と稱する所謂しりがたし。今窟中に、青き板石の古碑四五枚あり。

府中街道側から見た様子。

外から見ても木が生い茂っている。

96 金沢八景

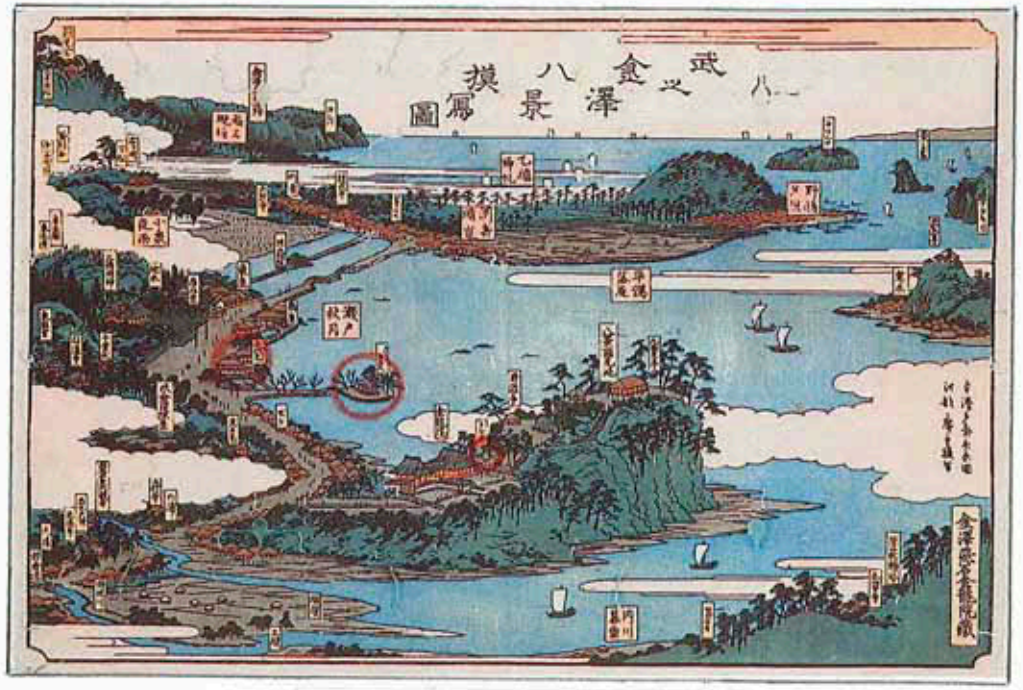
◎武蔵国の21郡の一番南にある久良岐郡に属す

神奈川県横浜市金沢区瀬戸周辺

＝古くから知られた景勝の地で旧跡・文化財が多い＝

八景の「瀬戸秋月」琵琶島の瀬戸弁財天。モノレールの駅から撮る。

金沢文庫：鎌倉時代中期の建治元年（１２７５）に北条実時が晩年に鎌倉の館から一族の金沢氏の蔵書を移した書庫で、その後称名寺が引きつぎ蔵書を管理した。平成２年現在地へ移転した。

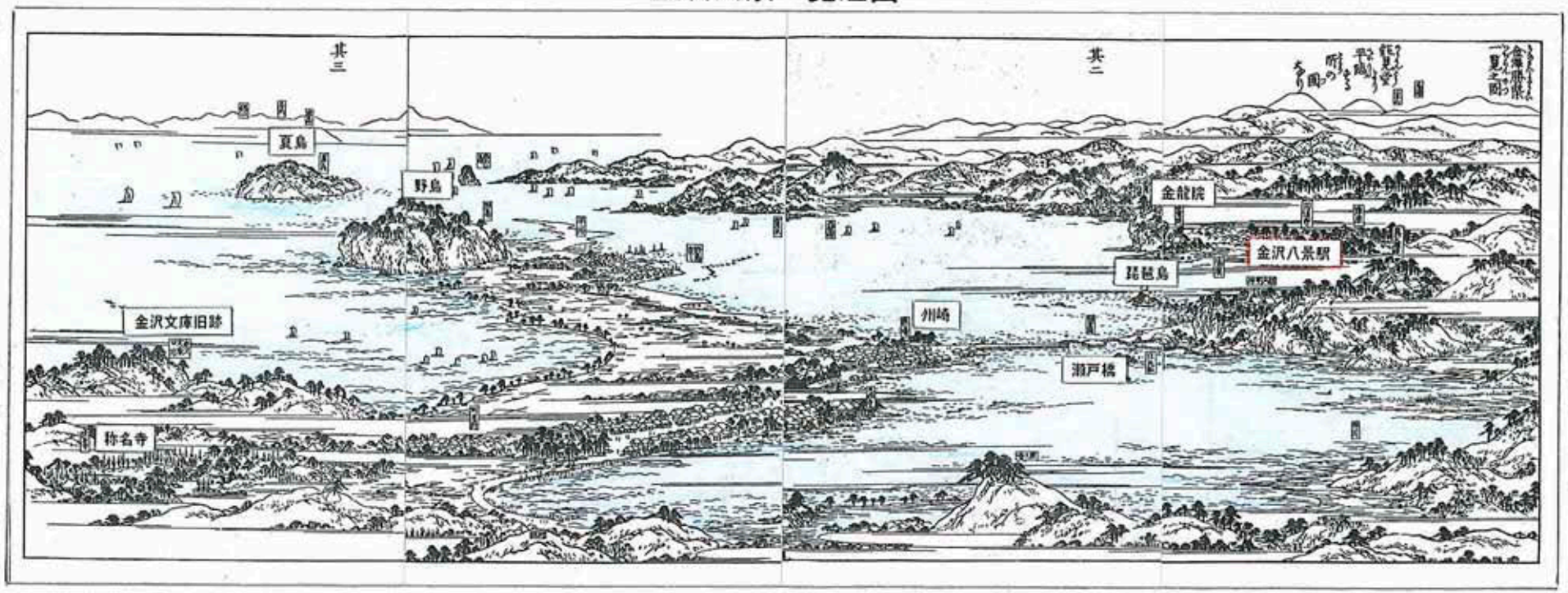


『武之金沢八景模写図』　歌川広重

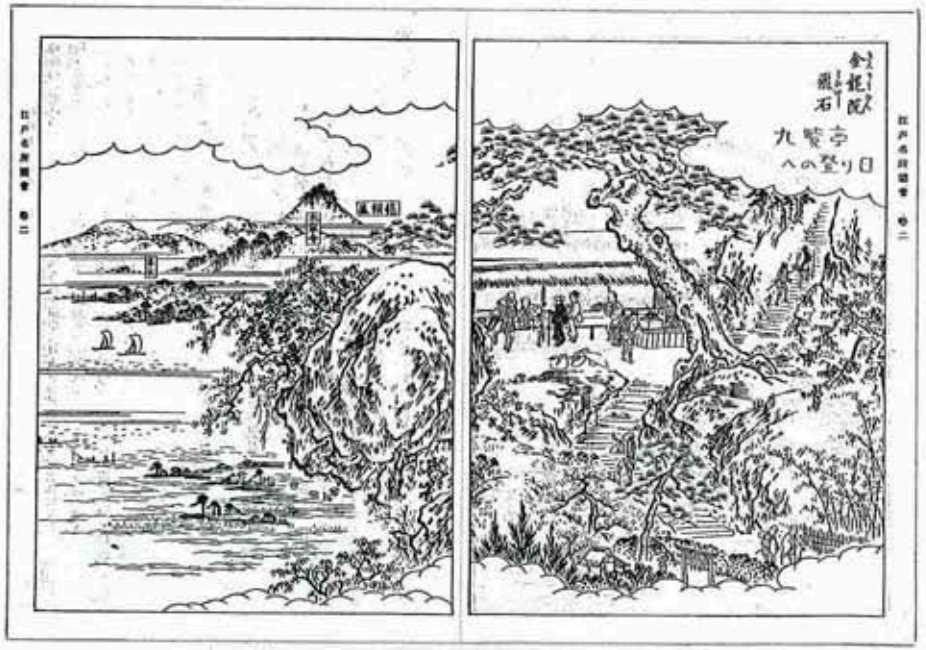
老舗の料亭「千代本」

金沢八景一覧之図

金澤　此地は六浦庄の内なり。吉田兼好法師も此地に住まれたりし事、家集に見えたり。堯惠法師の「北國紀行」にも、神異絶妙の勝地なりと稱せられたり。往古巨勢金岡此地の勝景を摸し畫かんとし、及ばずして筆を投じ嘆賞す。大明心越禪師は、其佳景西湖に似たりとて、其八勝に准擬し、八詠の詩賦あり。



京浜急行の能見台駅の西側にある「能見台」より見た金沢八景の全図



金龍院飛石。室町時代創建の臨済宗の寺。

文化９年（１８１２）の大地震で境内の際に落ちた。